

小林秀年 教授 略歴

【学歴】

- 1978年3月 東洋大学第一部法学部経営法学科卒業
1980年3月 東洋大学大学院法学研究科私法学専攻博士前期課程
修了
1983年3月 東洋大学大学院法学研究科私法学専攻博士後期課程
満期退学

【学位】

- 1980年3月 法学修士 東洋大学

【職歴】

- 1983年4月 東洋大学法学部（法律学科）専任講師
1988年4月 東洋大学法学部（法律学科）助教授
1995年4月 東洋大学法学部（法律学科）教授（現在に至る）
1994年4月 東京国際大学商学部（非常勤講師）（2008年3月ま
で）
1997年4月 大東文化大学法学研究所（非常勤講師）（2008年3
月まで）
2002年4月 東洋大学法学部長（2期4年、2006年3月まで）
2002年4月 東洋大学評議員（2006年3月まで）
2005年11月21日 東洋大学理事（2006年12月6日まで）
2006年4月 東洋大学生涯学習センター所長（2008年3月まで）
2006年4月（財）文京アカデミー理事（2008年3月まで）
2009年4月 東京国際大学商学部（非常勤講師）（2016年3月ま
で）
2009年4月 大東文化大学法学研究所（非常勤講師）（現在に至
る）
2009年4月（財）大学基準協会 大学評価委員会全学評価分科
会第8群委員（2010年3月まで）
2009年10月 東洋大学学生部長（2017年3月まで）
2015年4月 東洋大学副学長（2017年3月まで）

2018年12月7日 東洋大学理事（2021年12月6日まで）
2021年4月 東洋大学井上円了哲学センター長（現在に至る）

【在外研究】

1981年2月 イギリス（ロンドン）（1981年3月まで）
1988年4月 西ドイツ（ボン大学）（1989年3月まで）

【国内研究】

2008年4月 東洋大学（2009年3月まで）

【所属学会】

・日本私法学会 ・信託法学会 ・金融法学会
・地域文化学会（2007年3月まで）

研究業績

【著書】

1. 基本マスター民法 (改訂版) 共著 法学書院 (1986年12月)
2. 物権法〈基本民法シリーズⅡ〉
共著 八千代出版 (1987年5月)
3. 民法要説 共著 文眞堂 (1988年4月)
4. 逐条判例民法 共著 法学書院 (1988年10月)
5. 民法注解 財産法 民法総則Ⅰ
共著 青林書院 (1989年1月)
6. 民法Ⅱ〔債権総論・各論〕〈争点ノート〉
共著 法学書院 (1989年11月)
7. スリーステップ 民法ゼミナール
共著 一粒社 (1992年5月)
8. 医療関連法規 共著 建帛社 (1994年2月)
9. 民法Ⅱ〔債権総論・各論〕改訂版〈争点ノート〉
共著 法学書院 (1999年7月)
10. 医療関連法規 改訂版 共著 建帛社 (2000年3月)
11. ケイスメソッド 民法Ⅱ 物権法
共著 不磨書房 (2002年9月) ほか

【論文等】

1. 企業担保制度の客体 (東洋法学27巻2号) (1984年3月) 47-71頁
2. 企業担保法の課題 ——イギリス浮動担保を礎として——
(東洋法学28巻2号) (1985年3月) 101-139頁
3. 企業担保の理論 ——企業担保法改正論——
(東洋法学31巻1-2合併号 創立100周年記念号) (1988年1月) 73-115頁
4. スコットランドにおける浮動担保の素描 (比較法25号 創立100周年記念号) (1988年3月) 91-116頁
5. 比較企業担保法——日本・イングランド・スコットランド—— (1) (比較法27号) (1990年3月) 81-95頁
6. 比較企業担保法——日本・イングランド・スコットランド

- （2完）（比較法28号）（1991年1月）153-173頁
7. わが国における財団抵当制度〔八千代出版「増補特殊担保法要義」所収〕（1991年6月）87-127頁
 8. 民法と比較した企業担保法の特質〔八千代出版「増補特殊担保法要義」所収〕（1991年6月）203-222頁
 9. スコットランドにおける浮動担保の概要〔八千代出版「増補特殊担保法要義」所収〕（1991年6月）263-292頁
 10. 譲渡担保に関する判例の動向〔八千代出版「増補特殊担保法要義」所収〕（1991年6月）303-307頁
 11. 民法177条の「第三者」範囲論（東洋法学35巻2号）（1992年1月）43-63頁
 12. 抵当権と工場抵当法三条目録との関係について ——優先弁済権の対抗力を中心として——（東洋法学44巻1号）（2000年9月）1-21頁
 13. 工場抵当法三条目録の効力について 『遠藤浩先生傘寿記念 現代民法学の理論と課題』所収（2002年9月）293-312頁〔第一法規出版株式会社〕
 14. スコットランドにおける Floating charges の研究（地域文化学会会報 No.14）（2006年2月）1-2頁
 15. 企業担保制度とその法的構造 ——新財団抵当制度の立法的課題に関する検討——（東洋法学50巻1・2合併号）（2007年3月）
 16. PEMBUATAN PRODUK HUKUM MELALUI SIDAND —— Peranan Pengadilan di Jepang——（裁判による法創造——日本における裁判所の役割——）（東洋大学学術フロンティア報告書2006年度）（2007年3月）222-224頁〔東洋大学アジア文化研究所〕
 17. 企業における無体財産権の担保化（東洋法学54巻3号）（2011年3月）131-155頁
 18. 18歳成年（民法改正）の概要（思春期学39巻1号）（2021年3月）142-147頁〔思春期学会〕
 19. 内閣府特番「新しい常識 18歳からの大人ルール」法律監視（ニッポン放送 2022年1月16日放映）ほか

【その他】

1. 個別担保から集合物担保へ (東洋21巻12号) (1984年12月) 2-11頁
2. 取得時効と登記 ——判例理論と学説の展開—— (東洋23巻11号) (1986年11月) 2-8頁
3. 法律行為の取消と登記——取消権者の帰責性と再三者保護要件の比較衡量—— (東洋24巻10号) (1987年10月) 17-22頁
4. 相続と登記——共同相続を中心として—— (東洋26巻11号) (1989年11月) 39-45頁
5. 民法177条の「第三者」について——主観的側面からの考察—— (東洋30巻1号) (1993年1月) 14-18頁
6. 物上代位権行使における「差押」の意義 (東洋37巻12号) (2000年12月) 14-18頁
7. 意思表示について (その1) (東洋45巻4・5号) (2008年8月) 16-19頁
8. 意思表示について (その2) (東洋45巻8号) (2008年11月) 14-17頁
9. 意思表示について (その3) (東洋46巻7号) (2009年10月) 16-20頁
10. 意思表示について (その4・完) (東洋47巻9号) (2010年12月) 12-16頁
11. 代理について (その1) (東洋48巻9号) (2011年12月) 16-20頁
12. 代理について (その2) (東洋49巻4・5号) (2012年8月) 13-17頁
13. 代理について (その3・完) (東洋50巻9号) (2013年12月) 16-20頁
14. 民法94条2項の類推適用について (東洋53巻6号) (2017年6月) 7-10頁 ほか

【講演・口頭発表等】

1. 埼玉県朝霞市 市民大学講座 (パートナーカレッジ 2004-2007年度)
2. 埼玉県川越市 市民大学講座 (2008年度)

3. 東京都江東区 市民大学講座（2010年度）
4. 東京都文京区 市民大学講座（2011年度）
5. 秋田県秋田市 女性学習センター主催 講演会（2011年度）
6. 奈良県生駒市 教育委員会主催 講演会（2012年度）
7. 埼玉県東松山市 彩の国生きがい大学主催 講演会（2016年度）
8. 埼玉県東松山市 社会福祉法人いずみ会 主催 講演会（2017年度）
9. 愛知県岡崎市 市役所（男女共同参画課主催）講演会（2017年度）
10. LINK UP TOYO 「18歳成人」民法改正で生活が変わる（2019年1月）
11. 東京交通短期大学2021年度特別教養講座「社会の変容と民法の改正」（2021年10月）
12. 東京交通短期大学2022年度特別教養講座「民法における契約について」（2022年11月）
13. 東京交通短期大学2023年度特別教養講座「高齢者の財産管理と民法」（2023年10月）

宮原 均 教授 略歴

【学歴】

- 昭和57年3月 中央大学法学部法律学科 卒業
昭和60年3月 中央大学大学院法学研究科博士課程前期終了（法学修士）
平成元年3月 中央大学大学院法学研究科博士課程後期単位取得退学

【職歴】

中央大学法学部講師、作新学院大学総合政策学部教授を経て、東洋大学法学部教授（平成21年4月～現在に至る）。

【社会的活動】

- ・蕨市行政経営推進会議・委員（会長）（平成17年5月～平成19年5月）
- ・栃木県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会・委員（会長）（平成20年1月～平成22年1月）
- ・朝霞市情報公開・個人情報審議会・委員（会長）（平成22年11月～平成28年3月）
- ・在外研究（カナダ・バンクーバー）プリティッシュ・コロンビア大学 ピーター・アラード法科大学院（平成28年3月～平成29年3月）
- ・埼玉県情報公開審査会・委員（会長）（平成31年4月～令和3年3月）

【学内委員等】

- ・東洋大学法学部法律学科主任（平成22年4月～平成26年3月）
- ・東洋大学FD推進センター研修部会長（平成22年4月～平成25年3月）
- ・東洋大学現代社会総合研究所「スポーツの現代的課題」プロジェクト・リーダー（平成27年9月～平成31年3月）
- ・東洋大学通信教育部長（令和2年4月～令和4年3月）

主な研究業績

【著書】

- ・『思想の絶対的自由と外部的行為の規制』（単著）（令和5年1月、八千代出版）
- ・『日米比較 憲法判例を考える [人権編・改訂第3版]』（単著）（令和4年4月、八千代出版）
- ・『日米比較 憲法判例を考える [統治編・改訂第2版]』（単著）（令和3年4月、八千代出版）
- ・『スポーツの現代的課題—「哲学」「キャリア」「グローバル」の視点から—』（編・著）（平成31年3月、東洋大学現代社会総合研究所）

【論文（単著）】

- ・「規制的テイキングに関する合衆国最高裁の判例法理」（令和5年3月、中村民雄 編『多様化するアメリカと合衆国裁判所—ロバーツ・コートの軌跡と課題』、成文堂）
- ・「財産権への制約と損失補償—合衆国最高裁の判例法理の展開—」（令和4年7月、東洋法学66巻1号）
- ・「政教分離と公有地上の宗教的施設」（令和4年4月、『日本国憲法学の理念と展望 憲法学会60周年記念論文集』、成文堂）
- ・「報道機関による取材活動の自由と司法過程における証言拒絶」（令和3年8月、東洋法学85巻1号）
- ・「体罰に関する裁判例の傾向」（平成30年12月、東洋法学62巻2号）
- ・「カナダにおける立法事実」（平成29年7月、東洋法学61巻1号）

【判例研究（単著）】

- ・「酒類販売の免許制（最三判平成4年12月15日民集46巻9号2829号）」（令和元年11月、憲法判例百選Ⅰ第7版、有斐閣）
- ・「連邦議会の立法権限（City of Boerne v. Flores, 521 U.S. 507（1997）」（平成24年12月、アメリカ法判例百選、有斐閣）
- ・「在外財産に対する請求権の放棄と国の補償義務（最大判昭和43年11月27日民集56巻4号95頁）」（平成19年2月、憲法判例百選Ⅰ第5版、有斐閣）

- ・「農地の転用許可と憲法29条による財産権の保障（最二判平成14年4月5日刑集56巻4号95頁）」（平成15年6月、判例時報1815号、日本評論社）
- ・裁判官の積極的な政治活動と表現の自由（最大決平成10年12月1日民集52巻9号1761頁）（平成12年3月、法学新報106巻5・6号）
- ・「補償金の支払時期（最大判昭和27年7月20日）」（平成6年9月、憲法判例百選Ⅰ第3版有斐閣）

【学会報告】

- ・「制度としての「公開」と情報管理責任」（日本公法学会（名城大学）、平成23年10月）
- ・「内面の絶対的自由と外部的行為の規制」（比較法学会（オンライン）、令和3年6月）

以 上

朝倉輝一 教授 略歴

【学歴】

- 1986年3月 東洋大学 文学部 哲学科卒業（学士 文学）
1989年3月 東洋大学 大学院 文学研究科 哲学専攻博士前期
課程修了
1993年3月 東洋大学 大学院 文学研究科 哲学専攻博士後期
課程満期退学

【学位】

- 1989年3月 修士（文学） 東洋大学
【論文題目：「『ドイツ・イデオロギー』における協働と交通」】
2002年3月 博士（乙・文）第60号 東洋大学
【論文題目：「討議倫理学の可能性」】

【職歴】

- 2008年4月 沖縄大学人文学部 准教授（2010年3月まで）
2010年4月 東洋大学法学部准教授
2016年4月 東洋大学法学部 教授

【受賞】

- 2007年 日本医学哲学・倫理学会学会賞 朝倉輝一著『討議倫理
倫理学の意義と可能性』（法政大学出版）

【委員】

- 琉球大学ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理委員会・疫学研究倫理委
員会（2008年10月—2010年3月）
東洋大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理運営委
員（2017年4月—2020年3月）

【役職（学内）】

- 社会連携室長（2022年4月—2024年3月）

【学会活動】

社会思想史学会会員、関東医学哲学 倫理学会 (運営委員)、日本医学哲学・倫理学会 (評議員理事2013-2018年) 他

研究業績

【単著】

『討議倫理学の意義と可能性』法政大学出版局（2004年）。

【共著】

『新版 医療倫理Q & A』関東医学哲学・倫理学会編、太陽出版、2013年4月

『哲学をしよう！』東洋大学編著、大成出版社、2012年11月

『看護学生のための生命倫理』盛永審一郎他編、丸善出版、2012年5月

『沖縄で学ぶ福祉老年学』朝倉 輝一・金城一雄・國吉和子・山城寛・西尾敦史・宮本晋一・玉木千賀子・村田真弓、学文社、2009年

『21世紀の人間論的課題 医療と人間』朝倉 輝一・霜田求・檜則章・佐藤労・黒瀬勉、ナカニシヤ出版、2007年、2011年

『ケアの生命倫理』朝倉 輝一・平山正実編著、日本評論社 2004年4月

『図解 哲学のことが面白いほどわかる本』浜田正編著、中経出版 1999年12月

【論文】

“The Community - based Integrated Care System in the Context of the Novel Coronavirus disease (COVID-19) Pandemic”, 『Japanese Society and Culture』 5 (3)、2023年3月

“The ‘Community-based Integrated Care System’ and Discourse Ethics — From the Viewpoint of Autonomy and Solidarity”, 『Japanese Society and Culture』 4 (3)、2022年3月

「新型コロナパンデミックと地域包括ケアシステム」『東洋法学』 65(3)、2022年3月

「自己責任」論の陥穽—責任概念の再構築のために』『東洋法学』 64(3)、2021年3月

「エマージングウィルスの時代のために」『東洋法学』 64(2)、2021年1月

- 「老いるということ」『東洋法学』62(3)、2019年3月
- 「地域包括ケアシステムと討議倫理—自立と連帯の観点から」『現代社会研究』(15)、2018年3月
- 「古い・自律と vulnerability — 討議倫理的視点から」『東洋法学』61(3)、2018年3月
- 「ハーバーマス・ロールズ論争再訪——『討議的正義か公正としての正義か』を超えて」『東洋法学』60(3)、2017年3月
- 「妥協とインテグリティ——医療における意思決定の問題」『東洋法学』59(3)、2016年3月
- 「科学・技術・テクノロジーとコミュニケーションの行為」『東洋法学』58(3)、2015年3月
- 「井上円了の後期思想——修身教会活動との関係から」『国際井上円了研究』(3) 2015年3月 (井上円了研究助成)
- 「哲学館事件後の教育方針と修身教会活動」『東洋通信2014特別号 通信教育部設置50周年記念号』、2014年12月
- 「ケアにおける承認の問題—「ケア」における倫理性—」『東洋法学』56(2)、2013年01月
- 「討議倫理とサンデル」『東洋大学国際哲学研究センター (icrp) 年報』第1号 (2012年)
- “Discourse Ethics and Michael Sandel”, International Research Center of Philosophy, Toyo University Journal of International Philosophy No. 1,
- 「討議理論と妥協」東洋大学法学会編『東洋法学』55(2)、2012年1月
- 「みなし末期」と「尊厳死」の間で——「福祉のターミナルケア」論争を振り返る」『医学哲学と倫理』(8) 日本医学哲学・倫理学会関東支部編、2011年3月
- 「公共的理性使用をめぐるハーバーマスとロールズの対話」『沖縄大学人文学部紀要』(12)、2010年3月31日
- 「道徳教育とケアの倫理」『沖縄大学人文学部紀要』(11)、2009年1月
- 「ハーバーマスとフーコー 相互了解へのパラダイムチェンジと自己の自己への関係」『東洋大学大学院紀要』(44)、2007年3月
- 「ケアリング・功利主義・対話的普遍性」『理想』(675)、理想

- 社、2005年10月
- 「ケアの概念を深めるために（第20回大会ワークショップ報告）」『医学哲学医学倫理』（23）、2005年10月
- 「看護ケアにおける良心と責任の問題」『医学哲学・医学倫理』（23）、医学哲学医学倫理学会編、2005年10月
- 「医療におけるケアと責任の倫理について」『医療と倫理』（5）、日本医学哲学倫理学会関東支部編、2005年3月
- 「『公共性の構造転換』ハーバーマス」『現代思想』32(11)、青土社、2004年9月
- 「自己決定の虚構と囲い込みの狭で」『情況』第3期5(3)、情況出版、2004年5月
- 「自己決定の虚構と囲い込みの狭間で——臓器移植問題にふれて（特集 自己決定論）」『情況』第3期5(5)、2004年5月
- 「癒しとナショナリズム」『情況』第三期4(9)、情況出版、2003年10月
- 「医療におけるケア概念と他者の問題」『医学哲学医学倫理』（21）、日本医学哲学倫理学会編、2003年10月
- 『ハーバーマス研究 討議倫理学の可能性』東洋大学博士（乙）論文第60号、2002年3月
- 「正義とケアについて」『東洋大学大学院紀要（文学研究科）』（38）、2002年2月
- 「医療倫理と討議倫理」『医療と倫理』（3）、日本医学哲学倫理学会関東支部編、2001年3月
- 「正義とケアについて——討議倫理学とケア倫理学の架橋のために」『東洋大学大学院紀要』38、2001年2月
- 「『公共性の構造転換』再読」『東洋大学大学院紀要（文学研究科）』（36）、2000年2月
- 「医療コミュニケーションとしてのインフォームド・コンセント——ディスクルス倫理学の立場から」『医学哲学・医学倫理』（17）、日本医学哲学倫理学会編、1999年10月
- 「ディスクルス倫理学におけるディスクルス原理と道徳原理」『東洋大学大学院紀要（文学研究科）』（35）、1999年2月
- 「ハーバーマスにおけるコミュニケーション的行為と正統化の問題」『白山哲学』（27）、1993年3月

【翻訳】

【共訳】

- J. ハーバーマス 『討議倫理』 朝倉輝一・清水多吉、法政大学出版局 (2007年)
- J. ハーバーマス 『史的唯物論の再構成』 朝倉輝一・清水多吉、法政大学出版局 (2000年)

【単独訳】

- C. ウォント・A. クリモウスキイ 『FOR BEGINNERS カント』 朝倉輝一、現代書館、1999年6月
- D. リーダー・J. グロブス 『FOR BEGINNERS ラカン』 朝倉輝一、現代書館、1997年11月

【補助教材】

「レポート・論文を書くために」『東洋通信』、2014年12月号
学会発表 「井上円了の後期の思想について——修身教会活動との関係から」
「国際井上円了学会 ハンガリー研究集会—井上円了と明治時代の日本：哲学・宗教・教育を巡って—」 2014年4月24日他

【共同研究・競争的資金等の研究課題】

- ・「道徳的推論を向上する風土を育むオーセンティック・リーダーシップモデル」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023年4月—2026年3月 課題番号 23K09788m、勝山貴美子、加藤憲、撫養真紀子、朝倉輝一、真野俊樹
- ・「道徳的推論向上を目指した多職種連携教育」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2020年4月—2023年3月 課題番号 20K10661、勝山貴美子、加藤憲、撫養真紀子、朝倉輝一、真野俊樹
- ・「急性期病院の医療従事者に対する対象者のくらしを見据えたケアのための多職種連携教育」日本学術振興会 平成28年度 (2016年度) 基盤研究 (C) (一般) 2016年4月—2018年3月 勝山貴美子・朝倉輝一他
- ・「井上円了研究の中でも手薄な円了の修身教会活動について、

特に『修身教会雑誌』を中心に読み解くことを通じて円了の後期の思想の解明を主眼とする研究」朝倉輝一、井上円了記念研究助成金（研究の助成）2013年度

- ・「日本学術振興会 平成15年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）学術図書刊行助成（課題番号155029）」朝倉輝一 科学研究費 研究成果公開促進費（学術図書）2003年